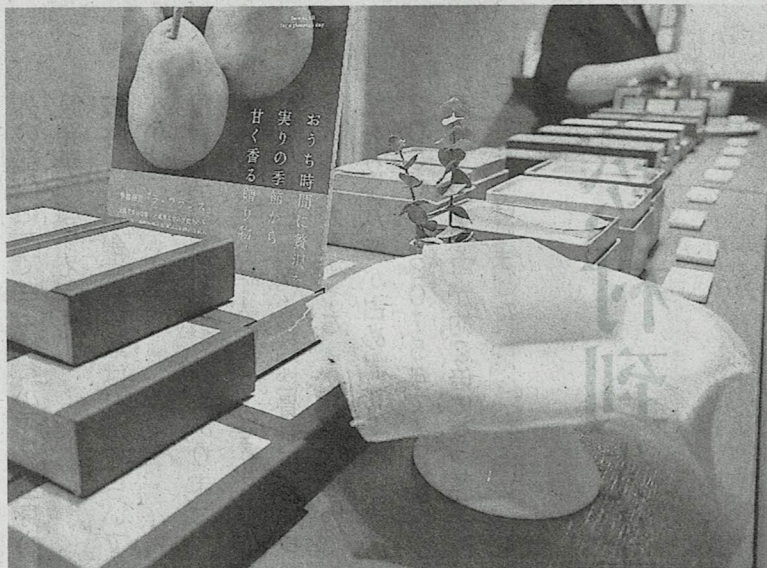


泡立ちしっとり 日曜日のご褒美



②色とりどりの手作りせっけんが並ぶ「Sunday Savon」の店内＝神戸市中央区
③出荷前のせっけんを並べる田中さん＝芦屋市

全てひとりで手作り。これ欲しさに全国から客が集まる。そんな洗顔せっけんを10年以上、販売し続けている「町のせっけん屋」が神戸市にある。デパートなどで売られる大量生産の化粧品が主流の中、目指すのは毎日でも飽きない「町のパン屋さん」のような存在だという。



神戸「町のせっけん屋」田中さん

中央区栄町通1丁目の建物の2階にある「Sunday Savon(サンデーサボン)」。3畳ほどの空間に色とりどりの箱に入ったせっけんが並ぶ。その店名の通り、店が開くのは毎週日曜日だけだ。

「届けたい品質のせっけんを販売するためには、この方法しかありませんでした」

開発から製造まで1人でこなす田中光城さん(57)は言う。

看板商品である「水入りせっけん」の試作を始めたのは2012年。

それまで約20年間は、生活用品大手のP&Gで商品の研究開発に携わった。中でもファンデーションの開発が専門だった。

さまざまな原料を組み合わせ、無限にあるパターンの中から商品として売り出せる「黄金の配合」を探し出す。化粧品開発の最先端でその面白さにのめりこんだ。

だが、「これは」と自

化粧品研究職20年 質にこだわり手作り

信をもって商品化したい化粧品を提案しても、世に出ないこともあった。

コストが高くて、量を増やすとうまく混ざらないなど、工場での大量生産には向かなかつたためだ。質が良くて世に出るまで、1日だけになった。

40坪のトライアルサイズは一つ990円。顔だけでなく身体にも使える。

「ずっと使ってくれるお客さんがいるから」と10年以上レシピを変えていないという。オンラインの一般販売もしているため、全国から客が訪れる。

田中さんの理想は、同じように製造から販売までを手がける「マイスターコスメ」の店が増えること。

「化粧品は他人が『良い』と言ったものが必ずしも自分にとっても『良い』わけではない。高品質なものをしつかり試せて、自分に合う化粧品を見つげられることが大事だと思えます」

神戸の栄町通・海岸通りエリアをそんな場所にす

るのが、今の夢だ。(宮坂泰津)